

# 教育現場で活躍する 〈速聴対応〉 脳力開発プログラム

近年、速聴の効果は幅広い業界、業種で注目されている。中でもっとも熱い視線を送っているのが教育業界。これまで速聴は個人ユーザーを中心に広く浸透してきたが、その効果が話題になり、速聴を取り入れる教育現場が増えているのだ。今回登場していただいた澤田さんと松田さんは、共に教育者という立場から速聴を学習メソッドとして積極的に導入し、大きな成果を上げてきている。そこで、熱心な個人ユーザーでもあるお二人に、教育と速聴というテーマでお話を伺った。

—まず、お二人が「速聴プログラム」を始められたきっかけからお聞かせ下さい。

松田 私の場合、英語力を伸ばしたかったのが直接の動機でした。今から6年ほど前、外資系の銀行に勤めていました。日常的に英語を使う環境にあつたんです。外国人と一対一で話すときは支障がなかったんですが、複数の外国人とディスカッションをすると、会話についていけないことがありまして。それで、英会話

のテープを速聴で聴き始めたのですが、一週間もしないうちに相手の言葉が非常にゆっくり聞こえ、内容もよく理解できるようになったんです。英語力において飛躍的な効果が現れたため、その後から脳力開発プログラムも聴きだしたのですが、判断力や直感力が向上しましたね。

澤田 昔から脳力開発には興味を持たれていたのですか。

松田 もともと医学部志望だったこともあって、脳力開発や教育心理学などに関心をもっていたのは確かです。銀行員時代にも自分なりにそうした分野の勉強をしていたんですが、長男が生まれたのを契機に子供の脳力開発にのめり込んでしまつたんです(笑)。それで、3年前に会社を辞めて、右脳教育を取り入れた七田チャイルドアカデミーのフランチャイジーとして教室を開くことになりました。澤田先生は、どうして速聴を始めたのですか。

澤田 私は34歳の時に遭つた交通事故故がきっかけで速聴を始めました。左足の膝関節の複雑骨折と脳波の異

子供の変化を  
目の当たりにすると、  
人間は変われるもの  
だと大人も思う(松田)



**松田嘉章さん**  
1962年生まれ。七田チャイルドアカデミー田端教室、石神井教室経営。早稲田大学卒業後、外資系銀行勤務などを経て、95年に独立。幼児教育の七田チャイルドアカデミーのフランチャイズとして田端教室を開講。右脳教育と速聴を取り入れた独自の教育メソッドで話題になる。昨年4月には新たに石神井教室も開設。

## 子供にも速聴で 潜在脳力を開花 する喜びを知って もらいたい(澤田)

澤田 右脳教育とはどのようなものですか。

松田 簡単に説明しますと、脳には右脳と左脳があつて、左脳が情報と言語として記憶し、右脳はイメージとして記憶します。赤ちゃんの頃はどちらも使えるのですが、成長に伴い左脳優位になってしまつて、そこで小さい頃から訓練で右脳を活性化させるんです。そうすると、右脳を意識的に使えるようになり、大量の情報やイメージとして記憶し、処理できるようになりまして。さらに、右脳が発達すると、直感力や先見力もつ

起りますよ。

いできます。この訓練を子供にしている、まるで植物の芽が開くようにパツと右脳を使えるようになる瞬間があるんです。速聴はそれと同じことをしているんですね。

—澤田先生は、なぜ速聴を教育に取り入れようとしたんですか。

澤田 やはり自分が使つてみて効果があつたため、教育者として自分一人のものにしておくのは勿体ないと思ひまして。たまたま一昨年中学校を変わりましたが、そこで軟式野球部の顧問になつたんです。ところが、そのチームの弱さが並ではない。技術もなかったのですが、精神的に弱くて、強いチームと当たると、名前を聞いただけでもう負けた気分になつていて。そこで、昨年春から速聴機を与えて、潜在意識の改革を試みたんです。幸い中学の校長から承諾をいただき、SLIさんからも速聴機を無料で貸与してもらえました。

松田 生徒たちは変わりましたか？

澤田 精神的には180度変わりましたね。昨年の夏の大会では部員全員が優勝するつもりでいたほどです。結果的には2回戦で優勝候補と当たつてしまつたため、負けてしまひましたけど。

松田 野球が技術的にうまくなつた子もいましたか。

澤田 球筋が読めるようになった生徒はいますね。ボールがゆっくり見えるようになったようで、以前なら簡単に差し込まれていたような玉も打ち返せるようになりました。そのため、勉強でも使いたと言ひ出した生徒もいます。今春卒業した3年生なんですけど、公立高校を落ちて、野球の名門私立高校を目指すことになったんです。その生徒の成績では合格は難しかったんですが、「どうして受かりたいから、速聴をもう一度やらせてくれ」と言つてきたんです。私もたぶん無理だろうと思ひていましたが、驚いたことに受かつて

## 固定観念に 縛られた 自分の狭い枠を はずしてくれる(松田)

—松田さんは幼児教育でどのような速聴を使われているのですか。

松田 現在、私の教室では0歳から小学3年生が学んでいるのですが、速聴は主に年長(5〜6歳)から使わせています。テープに録音した単文や童話を速聴させて、文章を目で追わせたり、書き出しをさせるんです。この訓練で速読力も付いてきます。小さい頃から訓練を受けていないお子さんは読む力が低いのですが、速聴をやらせると、かなり伸びます。子供が速読したものを次々に書き出していくため、ご両親の方がびっくりなさいますね。

澤田 子供はどのくらいのスピードの速聴を聴き取れるのですか。

松田 初めから2倍速で聴かせるのですが、すぐに聴き取れるようになります。3〜4ヶ月すると、3〜5倍でも聴き取りますよ。やはり、成功体験を積み重ねてあげることが大切なんです。最初は嫌々やっていたものが、成功すると、今度は自分の気持ちで本人を押し上げてくれる。どんどん伸びていきます。そうした

子供の成長を見ていて、速聴に興味を持たれる親さんも多いですね。

澤田 私もこうして雑誌の取材などを受けるのと、大人の方からよく問い合わせがきます。一番多いのが、「どうですか、本当に効果があるんですか」という問い合わせです(笑)。

松田 どう返事していますか。

澤田 自分は効果があつたと思ひますので、正直に体験を話します。ただ「どうですか」と他人に聞いているうちはダメだとも言ひます。本当に変わつたから、何も考えずに投げ出すつもりで、やってみるべきだとアドバイスしています。そうすれば、あとは速聴が自分を後押ししてくれると思います。やはり、本当に脳力を向上させたかったり、自己改革をしたいなら、速聴はそのための自己投資だと思います。

松田 それは同感です。私も自分の内面を充実させるため、いつも年収の10%を自己投資に当てようようにしています。ただいくら自己投資をしても、人間は自分の枠の中なかか物事を考えられないので、なかなか自己を変えられない。自分はこれぐらいの脳力で、これぐらいの給料だから、これぐらいの人生だと無意識に枠をはめてしまつて。でも、速聴は人間の潜在意識に働きかけるので、その枠をはずしてくれます。これまでの人生観や固定観念を大きく変えられるチャンスを与えてくれるのが速聴の最大のメリットだと思います。

**澤田誠一さん**  
1963年生まれ。上尾市立大石南中学校教員。交通事故で膝関節を複雑骨折しながらも、長いリハビリの末、日常生活に支障がないまでに回復。速聴によって自らを精神的に回復した経験から、教育現場でも積極的に速聴を取り入れている。これまでに作文指導した生徒が「青少年読書感想文全国コンクール最優秀賞」などで受賞。



速聴を学校の  
選択科目として  
正式に取り入れて  
みたい(澤田)